

病害虫発生予察情報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

5月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	イネミズゾウムシ	並	並	果樹	リンゴのキンモンホソガ	少ない	やや早い
	イネドロオイムシ	並	並		リンゴのアブラムシ類	少ない	—
	イネゾウムシ	並	並		ニホンナシの黒星病	並~やや少ない	並
大麦	うどんこ病	並	—		ニホンナシのナシヒメシンクイ	やや多い	—
	赤かび病	やや多い	並		ニホンナシのハマキムシ類	多い	—
大豆	タネバエ	並	並		ニホンナシのハダニ類	少ない	やや早い
	ネキリムシ類(タマナヤガ)	多い	並		ブドウの黒とう病	並	やや早い
野菜	ネキリムシ類(タマナヤガ)	多い	並		ブドウの灰色かび病	少ない	やや早い
	タマネギのべと病	少ない	—		ブドウのべと病	並	やや早い
	タマネギの白色疫病	少ない	—		モモのせん孔細菌病	並	並
	タマネギ・白ねぎのネギアザミウマ	やや多い	並	モモのモモハモグリガ	少ない	やや早い	
果樹	リンゴの黒星病	少ない	並	花き 球根	チューリップの褐色斑点病	やや少ない	—
	リンゴの褐斑病	やや多い	やや早い		チューリップの球根腐敗病	やや多い	—
	リンゴのうどんこ病	少ない	—		チューリップのモザイク病	並~やや多い	—
	リンゴのハダニ類	並	やや早い		チューリップのアブラムシ類	並~やや多い	—

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974

情報参考 URL

<https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

I 水 稲

1 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が1.14%で平年（1.08%）並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：35 ページ参照

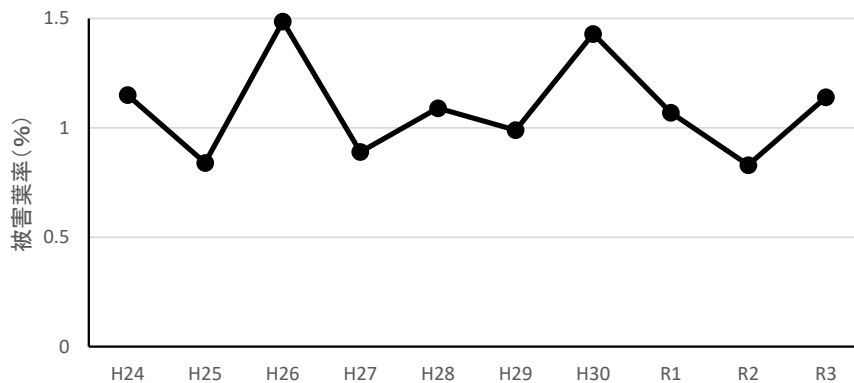


図1 イネミズゾウムシの被害葉率の年次推移(6月5日調査)

2 イネドロオウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年6月20日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0%で平年（0.01%）並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：36 ページ参照

3 イネゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0.05%で平年（0.01%）並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：35 ページ参照

Ⅱ 大 麦

1 うどんこ病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 4月25日の調査では、発病度が1.7で平年(1.5)並であった。

(3) 防除対策

・ 防除指針：49ページ参照

2 赤かび病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ 4月下旬～5月上旬の気象予報では、出穂後10日間の気温は高く、降水量は平年並または多いと予想されている。

(3) 防除対策

・ 防除指針：50ページ参照

Ⅲ 大 豆

1 タネバエ

(1) 予報内容 発 生 量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

・ 5月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

・ 早期播種や堆肥及び緑肥施用ほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。

・ ほ場の排水に努める。

・ 防除指針：52、54ページ参照

2 ネキリムシ類 (タマナヤガ)

(1) 予報内容 発 生 量：多い

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ フェロモントラップによる4月後半～5半月の誘殺数は55頭で平年(21.9頭)より多かった。

(3) 防除対策

・ 出芽後定期的にはほ場を見廻り、食害の早期発見に努める。

- ・ほ場周辺の雑草は、は種の一週間程前に刈取る。
- ・防除指針：52 ページ参照

IV 野菜

1 ネキリムシ類（タマナヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる4月2半旬～5半旬の誘殺数は55頭で平年（21.9頭）より多かった。

- (3) 防除対策

- ・出芽後定期的にはほ場を見廻り、食害の早期発見に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、は種・定植の一週間程前に刈取る。
- ・防除指針：69～133ページのネキリムシ類の項を参照

2 タマネギのべと病

- (1) 予報内容 発生量：少ない

- (2) 予報の根拠

- ・これまでの発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・排水対策を徹底する。
- ・防除指針：103ページ参照

3 タマネギの白色疫病

- (1) 予報内容 発生量：少ない

- (2) 予報の根拠

- ・これまでの発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・排水対策を徹底する。
- ・防除指針：103ページ参照

4 タマネギ・白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・5月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・防除指針：白ねぎ100～101、タマネギ104ページ参照

V 果 樹

1 リンゴの黒星病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように 10 日間隔での防除を徹底する。
- ・防除指針：139、141～143、147～148 ページ参照

2 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量は平年並～多かった。

【早発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・前年に発生の多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分に確保する。
- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように 10 日間隔での防除を徹底する。
- ・防除指針：139、142～143、147～148 ページ参照

3 リンゴのうどんこ病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・り病枝、り病果（葉）そうは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように 10 日間隔での防除を徹底する。
- ・防除指針：139、142～143、147～148 ページ参照

4 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

【早発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：144、146～147 ページ参照

5 リンゴのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

【早発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・キンモンホソガの被害が懸念される場合は、5月上旬頃を目途にコンフューザーAAを設置する。
- ・防除指針：139、144～145、148～149 ページ参照

6 リンゴのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・アブラムシ類の発生が多い場合は、ネオニコチノイド系殺虫剤を散布する。
- ・防除指針：139、145～146 ページ参照

7 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：並～やや少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・本年3～4月の落葉からの子のう胞子飛散量は平年並だが、落葉処理園地での飛散量は少ない。

- (3) 防除対策

- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように注意し、降雨前防除を実施する。
- ・芽基部病斑、り病した葉や幼果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・防除指針：151～155、158 ページ参照

8 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる4月1半旬～3半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は、5.8頭で平年（1.8頭）よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・5月中旬、下旬の防除を確実に実施する。
- ・防除指針：151、155～156、159～160ページ参照

9 ニホンナシのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・県内主要産地ではすでに花蕾への食害が多い。

- (3) 防除対策

- ・第一世代幼虫の発生時期（5月中下旬）の防除を徹底する。
- ・発生の多い園地では、ディアナ WDG 10,000 倍を散布する。
- ・食害果（花）そう及び葉は、摘み取って処分する。
- ・防除指針：151、155～156、159 ページ参照

10 ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

【早発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生期には園地の発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：157、159～160ページ参照

1 1 ブドウの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

【早発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・5月上旬（展葉5～6枚時）からの薬剤の散布間隔が開き過ぎないように、10日間隔での防除を徹底する。
- ・り病枝やり病葉は見つけ次第除去し、園外に持ち出して処分する。特に棚面の巻ひげは極力除去する。
- ・防除指針：161、163～164ページ参照

1 2 ブドウの灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
 発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

【早発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・開花前から棚面を明るくし、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。

- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園外に持ち出して処分する。
- ・発生の多い園地では、フルピカフロアブル2,000～3,000倍を散布する。
- ・防除指針：161、163～164ページ参照

1 3 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠
・前年の発生量は平年並であった。

【早発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

- (3) 防除対策
- ・5月上旬（展葉5～6枚時）からの薬剤の散布間隔が開き過ぎないように、10日間隔での防除を徹底する。
 - ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、5月中旬のマンゼブ水和剤をリドミルゴールドMZ 1,000倍に変更し散布する。
 - ・防除指針：161～165ページ参照

1 4 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

- (2) 予報の根拠
・前年の発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策
- ・春型枝病斑は見つけ次第除去し、処分する。
 - ・発生の多い園地では、マイコシールド1,500～3,000倍又はバリダシン液剤5 500倍を散布する。
 - ・防除指針：172～174、176ページ参照

1 5 モモのモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠
【少発要因】
・前年の発生量は少なかった。

【早発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、コンフューザーMMを設置する。
- ・防除指針：172、174～176ページ参照

VI 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・4月20日の予察ほ場（無防除）における発病株率（33.3%）が平年（55.8%）よりもやや少ない。

(3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りを徹底する。
- ・摘花直後に殺菌剤を散布した後、定期的に防除する。
- ・防除指針：190 ページ参照

2 チューリップの球根腐敗病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・植え付け時（10月上中旬）の地温が高めに推移した。
- ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多く見られた。
- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りを徹底する。
- ・停滞水とならないようにほ場の排水に努める。

3 チューリップのモザイク病

(1) 予報内容 発生量：平年並～やや多い

(2) 予報の根拠

- ・前年のモザイク病の発生量は並であった。

【多発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類を定期的に防除する。

- ・防除指針：190、209～210 ページ参照

4 チューリップのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：平年並～やや多い

(2) 予報の根拠

- ・4月20日現在、園芸研究所でのアブラムシ飛来が確認されていない。

【多発要因】

- ・5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の除草対策または、雑草への殺虫剤散布を徹底する。
- ・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病発病株の抜き取りを徹底する。
- ・防除指針：190、209～210 ページ参照

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。 |
|---|

北陸地方 3か月予報

(予報期間 5月から7月)

4月19日

新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並でしょう。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
気温は、高い確率50%です。

6月 期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並でしょう。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	北陸地方	05月~07月	20 30 50
		05月	20 30 50
		06月	20 40 40
		07月	20 40 40
降水量	北陸地方	05月~07月	30 30 40
		05月	30 40 30
		06月	30 30 40
		07月	30 40 30